

## 【22\_204技術系メルマガ】水平線を制する者は『目線』を制す

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

僕が普段から用いている水平線の引き方は、公式ページの方で  
すべての引き方を網羅して公開しています。

▼ラインの引き方解説一覧▼

[https://kuro-gaki.com/begginer\\_tutorial\\_jsd/#i-5](https://kuro-gaki.com/begginer_tutorial_jsd/#i-5)

ですが、引き方が分かっていても実際その使い方まで理解するのはなかなか難しい。。

そんな声もたくさんありますので、今回のメルマガでは

実事例を踏まえて ラインを実際のトレードにどう活かせばよいのか を解説したいと思います。

┌

└─ ■ ラインは『天井』と『床』の概念として考える

多くの人は、「正しいライン」の引き方を一生懸命知ろうとしますが

そもそも、「正しいライン」というものは存在しません。

何故なら、ライン(水平線)というのは自分がいつも一貫して節目と認識するポイントを

『勝手に決めている』だけだからです。

▼参考ツイート▼

[https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1548824889066405889?s=20&t=VtT5M\\_T57vFnUSfEeXYNtw](https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1548824889066405889?s=20&t=VtT5M_T57vFnUSfEeXYNtw)

この原則を踏まえたうえで、自分が意識するラインに対して

『何が起こったら、どうするか』を規定しておくことによって、初めて一貫して引くラインが意味を持つようになります。

それが、サブタイトルにも書いたように

ラインを『天井』と『床』として認識するという考え方です。

これは、希望者が多ければいずれまた深掘りしてもいいかなと思いますが

単純に説明すれば、『天井＝レジスタンス』『床＝サポート』と考え

天井を突破すれば、次の天井までロングを。

床を突破すれば、次の床まではショート。

逆に突破できなければ、反転方向に向けて目線を固定する。

といった要領で僕は目線を決めているわけです。

といっても、言葉だけではピンと来ないと思うので、ひとつ事例を紹介します。

▼実トレード事例 EURJPY(L)▼

[https://kuro-gaki.com/muhai\\_saisoku/chart/2022-07-22.png](https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-07-22.png)

このポイントは、以前のメルマガ(【200】通目参照)で解説した実際のトレードですが

根拠とした水平線の説明までは細かくやっていなかったもので、背景も含めて説明しますね。  
(以前から購読中の方は、当時のメールも見ながら確認してみてください)

上の図を見て頂いた通り、今回のロング目線のポイントになったのは、H4足のアップトレンドを継続させる

『1番ライン(天井)を突破したことによる、次の天井に向けての上昇』で目線を固定したことにあります。

これがもし、天井突破に失敗した場合は、H4足でのダブルトップという認識のもとで

H1足以下のパターン分解で根拠を揃えていき、『天井から床に向かってのショート』のプランニングをしていきます。

このように、いつも自分が意識するラインに対して、『どうなったら、どうするのか？』

をあらかじめ想定して置く作業をするために、僕はラインを意識しています。

常に、天井・床がどこにあるのか？それに対して現在値はどちらに近いのか？

反発？突破？どちらで想定するのかを、リスクリワードと兼ね合わせながら『自分で(勝手に)決める』

決めたとおりの動きならトレードするし、違うなら見送るなり、ポジションを撮った後なら予定通りの位置で損切する。

常にこの作業を一貫して行うことを意識していきます。

ただラインを引くだけでお仕事が終わるわけではないので、その後の作業にしっかり繋げる事まで考えられるようにしたいですね。